



もっと知って、「乾癬 (かんせん)」のこと

治療上の不安や疑問は皮膚科専門医に相談を

提供: マルホ株式会社

「乾癬」は、日本に約40万人の患者がいるといわれる皮膚の病気です。その名前から感染すると誤解されることがありますが、人にうつることはありません。進歩する治療について、皮膚科専門医(日本皮膚科学会認定)の安部正敏先生と加藤一郎先生に聞きました。

※文中敬称略
※取材はソーシャルディスタンス確保などの感染予防対策をとって実施しました



札幌皮膚科クリニック
(札幌市中央区)
院長
安部 正敏先生

恵庭駅皮膚科クリニック
(恵庭市相生町)
院長
加藤 一郎先生

皮膚症状に加えて 関節に痛みが出ることも

「乾癬はどんな病気ですか。」
安部 乾癬は、赤く盛り上がった皮膚の表面が白くなったボロボロと剥けていく病気で、他人につく、不潔にしているという誤解されて悩む患者さんも多くいらっしゃいます。以前は原因不明の病気といわれていましたが、近年の研究でメカニズムはかなり解明されてきました。乾癬では通常1カ月半で生まれ変わる皮膚が4日程度で生まれ変わるために、垢のような皮膚がどんどんたまっていきまが、これには体内の免疫が関係していて、ウイルス・細菌・カビのうち、特にカビに対する反応が活発になりすぎていることがわかっています。
「受診に関して気を付けることはありますか。」
安部 尋常性乾癬を適切に治療することは、重症タイプへの進展を防ぐことにもなるので、症状に気付いたときは皮膚科専門医を受診して早期に診断をつけることが大切です。
「乾癬の種類について教えてください。」
安部 先に述べた皮膚症状が出る「尋常性乾癬」が大部分を占めます。まれに、全身に皮疹が広がって赤くなる「乾癬性紅皮症」や膿を伴う「膿疱性乾癬」という重症タイプもあります。乾癬性関節炎」といって、関節に痛みが出るタイプの乾癬も割程度あるとみられます。
「加藤 皮膚症状は体のどこにも出る可能性があります。頭や爪などにもみられます。少しよくなってもまた繰り返すのが乾癬なので、治りにくい症状があれば一人で悩まず、乾癬の診療に慣れた皮膚科専門医を受診しましょう。」



◆乾癬の患部

塗り薬から注射まで 豊富な治療から選択可能

「乾癬にはどんな治療があるのですか。」
安部 治療は、塗り薬、紫外線照射、飲み薬、注射(生物学的製剤)の4つに大別されます。それぞれに種類があるので、病気の程度や患者さんの状態に合った治療を提案し、患者さんの希望も反映して選んでいきます。
「それぞれ治療について教えてください。」
安部 基本治療は塗り薬です。現在は薬も進歩して、免疫反応に関わるステロイド、皮膚の新陳代謝に関わるビタミンD3、両成分の配合剤をつまみ分けられます。紫外線照射は皮膚に特有の治療で、特定の波長を当てること、副作用のリスクを下げて効果を引き出します。飲み薬は、免疫の暴走を止めたり調整したりするものが中心です。高い効果が期待でき、新しい薬剤も増えています。
「近くに承認施設がないときはどうなりますか。」
加藤 生物学的製剤等の治療が適当なケースでは、承認施設で治療を始めることとなります。内科との連携も必要のため、承認施設は基幹病院が多いのですが、札幌市内などではクリニックも増えています。
「乾癬治療の選択肢」
全身療法: 注射または点滴(生物学的製剤)、飲み薬(内服療法)
局所療法: 紫外線照射(光線療法)、塗り薬(外用療法)

正しい情報を得て、医師と協力して最適な治療へ

「患者さんに日常生活で気を付けてほしいことはありますか。」
加藤 乾癬では、ケプネル現象といって、皮膚に擦れる刺激が加わることで症状が出やすくなります。入浴して皮膚の表面の白い部分がふやけると、自身で剥いてしまつ方が多いのですが、余計に力がかさになってしまいます。決して剥かず、入浴後はしっかりと塗り薬を塗るようにしましょう。
「患者さんや周囲の方へのメッセージをお願いします。」
加藤 現在乾癬の診断を受けていない方で治りが悪い皮膚科専門医を受診して診断をつけてほしい情報を持っています。
「安部 ケプネル現象の対策として、窮屈な服を避け、保湿を心がけるのもよいです。また、食事ではアルコールや脂質をとり過ぎず、野菜をバランスよくとれる和食がおすすです。喫煙は治療効果を下げるので、禁煙が望ましいところです。ストレスにならない程度に日常生活に気を配り、よい状態を保つていただければと思います。」
「患者さんや周囲の方へのメッセージをお願いします。」
加藤 乾癬に限らず、患者さんにも一般の方にも、病気の正しい情報を持っています。

maruho 乾癬 マルホ 検索 小児乾癬 マルホ 検索

かんせん 乾癬.com 乾癬患者さんの日々の治療をサポートする情報サイト

小児乾癬について知ろう 乾癬の治療のポイントや日常生活に関するアドバイスなどをご覧ください